

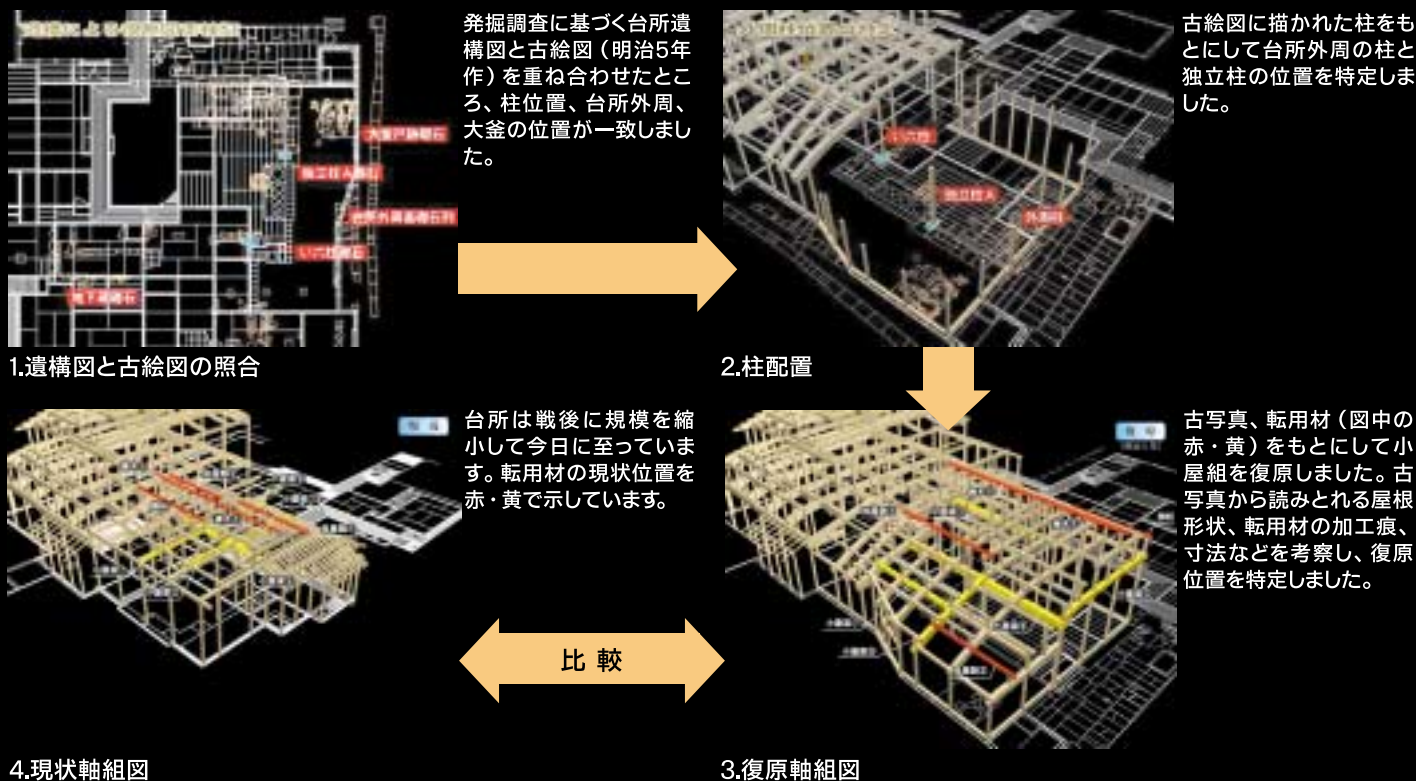
町並み保存地区の調査 research 6

重要文化財旧熊谷家住宅の保存修理

「百聞は一見に如かず」現状変更の3次元シミュレーション

重文旧熊谷家住宅の保存修理事業では、台所の現状変更に関する調査報告及び考察について、写真、3次元レーザースキャナー計測データ、3次元CG動画などのマルチメディア技術を利用して可視化しました。これによって現状変更を判りやすく伝えることができます。

調査の対象は遺構、古絵図、現状の台所に使用されていた転用材、古写真などで、これらをもとに幕末～明治初年の台所を考察しました。(映像提供:文化庁)



住宅・社寺の保存修理～野口家住宅～

今年度、町並み保存地区では民家住宅と社寺あわせて5件5棟の保存修理を行いました。

野口家は平成15年7月の大雨の日に屋根の一部が落ちたため、急拠修理を行なうことになりました。

屋根裏から見つかった板図の表には「寛政十二年七月吉日」「川井勝之助書之」と書かれていましたが、古い絵図でもその場所に川井氏の居宅が書かれたものがあります。「寛政の大火」が寛政12年(1800)3月24日(旧暦)ですから、およそ4ヶ月後の建築ということになります。

裏には墨で図面が書かれ、番付がふられていました。建物配置や板図の情報からすると当初は武家として建てられたようです。その後改造や増築されましたが、板図の番付と同じ位置に同じ番号の書かれた柱が見つかるなど、当初からの部材が今も使われていることが分かりました。

寛政12年の建築であれば大火で焼失した地域の中ではもっとも古い建物となります。



修理後
痕跡や板図により左側の間口2間半・奥行き1間半は後の増築ということが分かりました。



板図

表には建築年と思われる年号や職人の名前、裏には墨で設計図や番付が書かれていました。



番付で「卅八」と書かれた位置の柱を調べると「三十八」と書かれていました。建築当初からの部材だと思われます。

